# 電気事業託送供給等収支計算規則 （平成十八年経済産業省令第二号）

## 第一章　総則

#### 第一条

この省令において使用する用語は、電気事業法（以下「法」という。）、電気事業会計規則（昭和四十年通商産業省令第五十七号）、一般送配電事業託送供給等約款料金算定規則（平成二十八年経済産業省令第二十二号。以下「託送算定規則」という。）、一般送配電事業者間における振替供給に係る費用の算定に関する省令（平成十六年経済産業省令第百十八号）及び電源線に係る費用に関する省令（平成十六年経済産業省令第百十九号）において使用する用語の例による。

## 第二章　一般送配電事業者に係る託送供給等収支の整理等

#### 第二条（託送供給等収支の整理等）

一般送配電事業者（以下「事業者」という。）は、法第二十二条第一項の規定により、一般送配電事業の業務その他の変電、送電及び配電に係る業務（以下「託送供給等の業務」という。）に関する会計を整理しようとするときは、当該事業者が行う託送供給等の業務に係る収益、費用及び固定資産について、別表第一に掲げる基準に基づき、様式第一に整理しなければならない。

##### ２

前項の場合において、事業者の実情に応じた基準により、託送供給等の業務に関する会計を整理することが適当である場合であって、当該事業者が当該基準を、あらかじめ、経済産業大臣に届け出たときは、当該基準により様式第一に整理することができる。  
この場合において、経済産業大臣は、当該基準を公表しなければならない。

#### 第三条（証明書）

事業者は、様式第一が別表第一に掲げる基準又は前条第二項の規定により届け出た基準に基づいて適正に作成されていることについての公認会計士（公認会計士法（昭和二十三年法律第百三号）第十六条の二第五項に規定する外国公認会計士を含む。第七条において同じ。）又は監査法人による証明書を得なければならない。

#### 第四条（収支計算書の公表等）

事業者は、当該事業者の事業年度経過後四月以内に法第二十二条第二項の規定による公表をしなければならない。

##### ２

事業者が法第二十二条第二項の規定により公表すべき書類は、様式第一とし、一般送配電事業の業務を行う場所における公衆の見やすい箇所への掲示その他の適切な方法により公表するものとする。

##### ３

事業者は、第一項の規定により公表を行う場合は、前条に規定する証明書を経済産業大臣に提出しなければならない。

#### 第五条（公表方法の特例）

事業者が前条第二項の書類を公表することにより、特定の電気の供給を受ける者に係る電気の購入価額が一般に判明する場合その他当該特定の電気の供給を受ける者の権利利益を害することになる場合には、当該事業者は、同項の規定にかかわらず、公表すべき書類に記載すべき情報のうち当該要因となる部分については、公表しないことができる。  
この場合において、当該事業者は、公表しない部分を記載した書類を経済産業大臣に提出しなければならない。

## 第三章　送電事業者に係る振替供給等収支の整理等

#### 第六条（振替供給等収支の整理等）

送電事業者は、法第二十七条の十二において読み替えて準用する法第二十二条第一項の規定により、送電事業の業務その他の変電及び送電に係る業務（以下「振替供給等の業務」という。）に関する会計を整理しようとするときは、当該送電事業者が行う振替供給等の業務に係る収益、費用及び固定資産について、別表第二に掲げる基準に基づき、様式第二に整理しなければならない。

##### ２

前項の場合において、送電事業者の実情に応じた基準により、振替供給等の業務に関する会計を整理することが適当である場合であって、当該送電事業者が当該基準を、あらかじめ、経済産業大臣に届け出たときは、当該基準により様式第二に整理することができる。  
この場合において、経済産業大臣は、当該基準を公表しなければならない。

#### 第七条（証明書）

送電事業者は、様式第二が別表第二に掲げる基準又は前条第二項の規定により届け出た基準に基づいて適正に作成されていることについての公認会計士又は監査法人による証明書を得なければならない。

#### 第八条（収支計算書の公表等）

送電事業者は、当該送電事業者の事業年度経過後四月以内に法第二十七条の十二において準用する法第二十二条第二項の規定による公表をしなければならない。

##### ２

送電事業者が法第二十七条の十二において準用する法第二十二条第二項の規定により公表すべき書類は、様式第二とし、送電事業の業務を行う場所における公衆の見やすい箇所への掲示その他の適切な方法により公表するものとする。

##### ３

送電事業者は、第一項の規定により公表を行う場合は、前条に規定する証明書を経済産業大臣に提出しなければならない。

#### 第九条（公表方法の特例）

送電事業者が前条第二項の書類を公表することにより、特定の電気の供給を受ける者に係る電気の購入価額が一般に判明する場合その他当該特定の電気の供給を受ける者の権利利益を害することになる場合には、当該送電事業者は、同項の規定にかかわらず、公表すべき書類に記載すべき情報のうち当該要因となる部分については、公表しないことができる。  
この場合において、当該送電事業者は、公表しない部分を記載した書類を経済産業大臣に提出しなければならない。

# 附　則

この省令は、公布の日から施行し、この省令の施行の日以後に終了する事業年度に係る託送供給等の業務及び振替供給等の業務に関する会計の整理について適用する。

# 附則（平成一八年五月三一日経済産業省令第七三号）

この省令は、公布の日から施行し、改正後の電気事業託送供給等収支計算規則の規定は、この省令の施行の日以後に終了する事業年度に係る託送供給等の業務及び振替供給等の業務に関する会計の整理について適用する。

# 附則（平成一八年一二月二六日経済産業省令第一一六号）

この省令は、公布の日から施行し、改正後の電気事業託送供給等収支計算規則の規定は、この省令の施行の日以後に終了する事業年度に係る託送供給等の業務及び振替供給等の業務に関する会計の整理について適用する。

# 附則（平成二〇年七月七日経済産業省令第四七号）

#### 第一条（施行期日）

この省令は、公布の日から施行する。

#### 第四条（電気事業託送供給等収支計算規則の一部改正に伴う経過措置）

この省令による改正後の電気事業託送供給等収支計算規則（以下「新託送収支規則」という。）の規定は、平成二十一年四月一日以後に開始する事業年度に係る託送供給の業務その他の変電、送電及び配電に係る業務（以下「託送供給等の業務」という。）並びに振替供給の業務その他の変電及び送電に係る業務（以下「振替供給等の業務」という。）に関する会計の整理について適用し、同日前に開始する事業年度に係るものについては、なお従前の例による。  
ただし、平成十九年四月一日以後に開始する事業年度に係る社内取引明細表、設備別費用明細表、送配電部門収支計算書及び送変電部門収支計算書のうち、この省令の公布の日以後に公表するものについては、新託送収支規則の規定を適用することができる。

##### ２

平成十九年四月一日の属する事業年度に係る社内取引明細表、設備別費用明細表及び送配電部門収支計算書について前項ただし書の規定により新託送収支規則の規定を適用する一般電気事業者は、当該事業年度に係る託送供給等の業務に関する会計を整理しようとする場合にあっては、新託送収支規則第四条第一項の規定中「四月以内」とあるのは、「五月以内」と読み替えるものとする。

##### ３

平成十九年四月一日の属する事業年度に係る送変電部門収支計算書について第一項ただし書の規定により新託送収支規則の規定を適用する卸電気事業者は、当該事業年度に係る振替供給等の業務に関する会計を整理しようとする場合にあっては、新託送収支規則第九条第一項の規定中「四月以内」とあるのは、「五月以内」と読み替えるものとする。

##### ４

平成二十一年四月一日の属する事業年度に係る前期超過利潤累積額及び前期内部留保相当額は、一般電気事業者の実情に応じて適当と認められる方法により算定するものとする。

# 附則（平成二二年三月三一日経済産業省令第二〇号）

#### 第一条（施行期日）

この省令は、公布の日から施行する。

#### 第八条（電気事業託送供給等収支計算規則の一部改正に伴う経過措置）

この省令による改正後の電気事業託送供給等収支計算規則（以下「新託送収支規則」という。）の規定は、この省令の施行の日以後に終了する事業年度に係る託送供給の業務その他の変電、送電及び配電に係る業務（以下「託送供給等の業務」という。）並びに振替供給の業務その他の変電及び送電に係る業務（以下「振替供給等の業務」という。）に関する会計の整理について適用する。  
ただし、新託送収支規則別表第一、別表第二、別表第三、様式第一第五表、様式第二第五表及び様式第三第四表のうち資産除去債務相当資産に係る部分については、平成二十二年四月一日前に開始する事業年度に係る託送供給等の業務及び振替供給等の業務に関する会計の整理については、適用しない。

# 附則（平成二八年三月二九日経済産業省令第四六号）

この省令は、公布の日から施行する。

# 附則（平成二八年三月二九日経済産業省令第四七号）

##### １

この省令は、電気事業法等の一部を改正する法律の施行の日（平成二十八年四月一日）から施行する。

##### ２

平成二十七年度に係る変電、送電及び配電に係る業務並びに変電及び送電に係る業務に関する会計の整理については、なお従前の例による。

# 附則（平成二九年九月二八日経済産業省令第七六号）

#### 第一条（施行期日）

この省令は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構法の一部を改正する法律（平成二十九年法律第三十号）の施行の日から施行する。

# 附則（平成三〇年三月三〇日経済産業省令第一五号）

この省令は、公布の日から施行する。

# 附則（平成三〇年五月一日経済産業省令第二六号）

この省令は、平成三十年五月一日から施行する。

# 附則（令和元年七月二六日経済産業省令第二八号）

この省令は、令和元年八月二日から施行する。

# 附則（令和二年三月三一日経済産業省令第二七号）

##### １

この省令は、公布の日から施行する。

##### ２

この省令による改正後の電気事業託送供給等収支計算規則及びガス事業託送供給収支計算規則の規定は、平成三十一年四月一日以後に開始された事業年度に係る会計の整理について適用し、同日前に開始した事業年度に係る会計の整理については、なお従前の例による。

* 事業者に係る託送供給等収支配分基準
* １．発生の主な原因を勘案して、電灯料、電力料、地帯間販売電源料、地帯間販売送電料（電源線に係る収益を除く。）、他社販売電源料、託送収益（電源線に係る収益を除く。）、使用済燃料再処理等既発電料受取契約締結分、事業者間精算収益、電気事業雑収益、遅収加算料金及び社内取引収益を、一般送配電事業等の業務に関する部門（以下「送配電部門」という。）の収益に整理すること。
* ２．
* ３．一般送配電事業以外の事業を営む事業者は、１．で整理された収益及び２．で整理された費用のうち、次に掲げるものを、それぞれ社内取引項目として、送配電部門の収益及び費用に整理し、様式第１第１表により社内取引明細表を作成すること。
* ４．２．及び３．の規定により送配電部門の費用として整理された水力発電費、火力発電費、新エネルギー等発電費、送電費、変電費、配電費、販売費、一般管理費及びその他の費用について、様式第１第２表により設備別費用明細表を作成すること。
* ５．発生の主な原因を勘案して、次に掲げる収益又は費用を、送配電部門の収益又は費用に整理すること。
* ６．１．から３．まで及び５．により整理された送配電部門の収益及び費用を基に、様式第１第３表により送配電部門収支計算書を作成すること。
* ７．発生の主な原因を勘案して、送配電部門に係る固定資産（電源線及び附帯事業と共用するもの（附帯事業に係る部分に限る。）を除く。）を、水力発電設備、火力発電設備、新エネルギー等発電設備、送電設備、変電設備、配電設備及び業務設備並びにこれらの建設仮勘定に配分することにより整理し、様式第１第４表により固定資産明細表を作成すること。
* ８．６．の規定により作成された送配電部門収支計算書を基に、様式第１第５表により超過利潤計算書を作成すること。  
  ただし、特別損益については、６．の規定により整理された特別利益から６．の規定により整理された特別損失（災害に伴う特別損失を除く。）を控除した額とすること。
* ９．７．の規定により作成された固定資産明細表及び８．の規定により作成された超過利潤計算書を基に、様式第１第６表により超過利潤累積額管理表を作成すること。
* １０．供給計画により主要な送電線路及び変電所として届け出た設備（電源線及び前期以前に竣工済みとなったものを除く。以下この別表において「特定設備」という。）に係る投資額（当該特定設備の帳簿原価の事業年度における増加額をいう。）について、様式第１第７表により特定設備投資額明細表を整理すること。
* １１．８．の規定により作成された超過利潤計算書及び１０．の規定により作成された特定設備投資額明細表を基に、様式第１第８表により内部留保相当額管理表を作成すること。
* １２．法第１８条第１項の規定により認可を受けた託送供給等約款（同条第５項若しくは第８項の規定による変更の届出があったとき、又は法第１９条第２項の規定による変更があったときは、その変更後のもの。以下同じ。）の料金を設定した際に定めた原価算定期間が終了した事業者は、８．の規定により作成された超過利潤計算書を基に、様式第１第９表により乖離率計算書を作成すること。
* １３．６．の規定により作成された送配電部門収支計算書を基に、様式第１第１０表により離島供給収支計算書を作成すること。
* １４．６．の規定により作成された送配電部門収支計算書を基に、様式第１第１１表によりインバランス収支計算書を作成すること。
* 送電事業者に係る振替供給等収支配分基準
* １．電気事業営業収益のうち、次に掲げるものを、振替供給等の業務に関する部門（以下「送変電部門」という。）の収益に整理すること。
* ２．電気事業営業費用のうち、送変電部門に係る費用を、次の方法により抽出することにより整理すること。
* ３．２．の規定により送変電部門の費用として整理された送電費、変電費及びその他の費用について、様式第２第２表により設備別費用明細表を作成すること。
* ４．次に掲げる収益又は費用を、それぞれ次の比率又は方法により、送変電部門の収益又は費用に整理すること。
* ５．１．、２．及び４．により整理された送変電部門の収益及び費用を基に、様式第２第３表により送変電部門収支計算書を作成すること。
* ６．電気事業固定資産のうち、送変電部門に係る固定資産を、次の方法により抽出することにより整理すること。